



第72回“社会を明るくする運動”長野県作文コンテスト
優秀賞「長野県作文コンテスト審査会委員長特別賞」

本当の優しさ

茅野市立宮川小学校・6年

いけだ はな
池田 芭奈

最近、学校のトイレの便器の中に、ビニール袋が詰め込まれていたという事件が起きました。私はそれを聞いてとてもびっくりしました。まさか便器の中にビニール袋を詰め込む人がいるとは思わなかったからです。しかも何枚か詰め込まれていたそうです。

流石に誰がやったか突き止めて注意をしなくてはならないことです。ですが、先生は違いました。犯人は誰かではなく、どうしてこうなったかを問題に考えていました。どういうことかという、便器の中にビニール袋を詰め込むのは、誰かに助けを求めているのだと言いました。何か困っていることや悩みがあって、それを誰かに聞いてほしいのだと。でもそれがうまく言えず、このような事態になってしまったと。だから、「皆さんも様子がおかしいお友達がいたら、先生に教えてくださいね。その子はきっと何か困っていたり、悩んでいたりでして、助けを求めていますから。」と先生は言いました。私はその話を聞いたときに、自分には心の底の温かさがたりないと思いました。自分だって悩みを抱え込んでしまって、とてもつらかったことがありました。なのに、いざ他人となると、助けようともせず、^{ひとごと}他人事と^{ごと}思ってしまっていました。きっと私には人に優しくしていても、それは表面だけの冷たい優しさなのだろう。ありきたりな優しさだと思いました。でも先生は違いました。本当の優しさの言葉でした。やった人がただいけないというので事を終わりにするのではなく、なぜその行いをしたかを大切にし、罪を犯してしまった人にも寄り添っていました。先生はすごいなあと思いました。

本当の優しさは簡単に手に入れられるものではありません。心に余裕があり、その人ときちんと向き合っていなければ、成り立たないものです。

ほとんどの優しさは、ありきたりで、やろうと思えばすぐできるような

ものです。ですが、人が求めているのは、そのような優しさではなく、心のこもった温かい本当の優しさです。そして、優しくする方も、本当の優しさで感謝される方がうれしいはずです。ですが結局人は人なので、他人より自分が一番でしょう。全員が本当の優しさを持てる社会は夢のまた夢です。だけれども、一人一人が少しずつ変わっていけば、少しは明るい未来が期待できそうですね。でもさっきも言った通り、本当の優しさのある人になるのはとても難しいことです。だから私は、本当の優しさのある人間になるために三つのことを大切に生活したいと思います。

一つ目はいろいろな人と少しずつでもいいのでコミュニケーションをとってみることです。いろんな相手とコミュニケーションをとると、相手のことを考えた発言ができるようになります。そして、会話のキャッチボールが上手になると思います。

二つ目は、その人の立場になってものごとを考えてみることです。なかなか難しいことではありますが、これができるようになったら、本当の優しさまであと少しだと思います。

三つ目は自分を大切にすることです。今まで相手のことを重視で話をしてきましたが、相手のことを考えるにはまず、自分の心に余裕がなければできません。そのため、自分の心を大切にすることも大事です。

以上の三つのことを普段から心がけて過ごしていきたいです。そして皆さんも、自分なりの本当の優しさを持つ人間になれるような行動を考えてみたらどうですか。

それを達成できればきっと、今よりも社会が明るく見えると思います。